

【巻頭言】

哲学会閉会の辞

平成8年4月、国士舘大学文学部倫理学専攻は、倫理学専攻の専任・非常勤の全教員と全学生を会員とする学問的ソサエティとして「国士舘大学哲学会」を発足し、その後25年間にわたり、講演会、シンポジウム、機関誌『国士舘哲学』の発刊などを通じて、東西の哲学、倫理学、美学、宗教思想の研究・発展に尽力してきた。

しかし誠に残念なことに、本会は令和3年3月をもって閉会することになった。周知の通り倫理学専攻は平成29年度をもって新入生の募集が停止となった。そのため平成29年度の入学生が卒業する令和2年度をもって倫理学専攻は廃止となる。倫理学専攻を母胎とする国士舘大学哲学会もこれに伴い閉会せざるをえない。

倫理学専攻のカリキュラムは古今東西の哲学思想10分野をカバーしていた。それゆえ専攻所属教員の専門領域は多岐にわたり、毎年2月に行われる『国士舘哲学』掲載論文の合評会は、分野を異にする研究者間の濃密で自由闊達な議論の場となった。その議論は常に知的刺激に満ちていた。

また、年1回開催される倫理学専攻講演会では、各分野の研究者を学外から招いて倫理学専攻の学生向けの講演をお願いした（その講演の要旨は『国士舘哲学』の各号の巻頭に置かれている）。各分野の第一線で活躍している方々の講演は常に倫理学専攻の学生の興味を引き付けた。質疑応答では数多くの学生が発言し、懇親会では講師の周りに学生の輪ができた。倫理学専攻に根付いていたこの独特のカルチャーはしばしば講演者を驚かせた。

平成17年発刊の『国士舘哲学』第十号からはその年度に合格した卒業論文のうち特に優れたものの要旨の掲載を始めた。倫理学専攻の卒業論

哲学会閉会の辞

文の課題は、自ら選んだ1冊の思想書を自らの力で徹底的に読み抜いてその思想的核を取り出すことをその特色とする。第十号から第二十五号（最終号）に掲載した卒業論文の要旨は、倫理学専攻におけるそのような特色ある教育実践の成果の一端を示すものと自負している。

このように国士舘大学哲学会は、哲学・思想研究の発展の場として、倫理学専攻の教育を支えるツールとして、極めて重要な役割を果たしてきた。閉会せざるを得なくなったことは残念ではあるが、本会の会則第二条にうたっている「東西の哲学、倫理学、美学、宗教思想の研究・発展」という目的は一定程達成することができたのではないかと考えている。そしてそれはひとえに、『国士舘哲学』に寄稿してくださったすべての執筆者の方々、倫理学専攻講演会の講師を引き受けてくださった諸先生方、そしてこれまで在籍した倫理学専攻の学生の皆さんの尽力の賜である。これらの全ての方々にこの場を借りて心よりお礼を申し上げる。

令和3年3月10日

国士舘大学哲学会会長 野津 悌